

【オリコンサルグローバルが監理 マニラ首都圏地下鉄 CP103 工区起工】



マニラ首都圏地下鉄 CP103工区起工
施工は三井住友建設、オリコンサルグローバルが監理
フィリピン・マニラ首都圏地下鉄事業（フェーズ1）CP103工区の起工式が13日、パウティスタ運輸大臣など同国要人らが出席して現地で開催された。写真は、施工は三井住友建設、施工監理はオリエンタルコンサルタンツグローバルが担当する。

この事業は、同国初の地下鉄として、人口増加に伴い交通渋滞が深刻化しているマニラ首都圏での大規模公共交通網の南北軸を形成する。日本政府のODA（政府開発援助）資金と無償資金協力で実施されており、総延長は34^{km}。2028年の開業を目指して工事が進んでいる。

今回起工したCP103工区は、アノナス駅、カティパン駅の二つの駅舎工事を含むイーストアベニュー駅からオルティガスノース駅までを結ぶ全長約6.5^{km}の地下鉄区間。四つの各駅舎間を結ぶ上下線シールドトンネル区間（内径6.1^m）の総延長は11.9^{km}となる。工事契約金額は約657億円。工事期間は着工から290週（約66.7カ月）。設計はオリエンタルコンサルタンツグローバルJVで担当した。